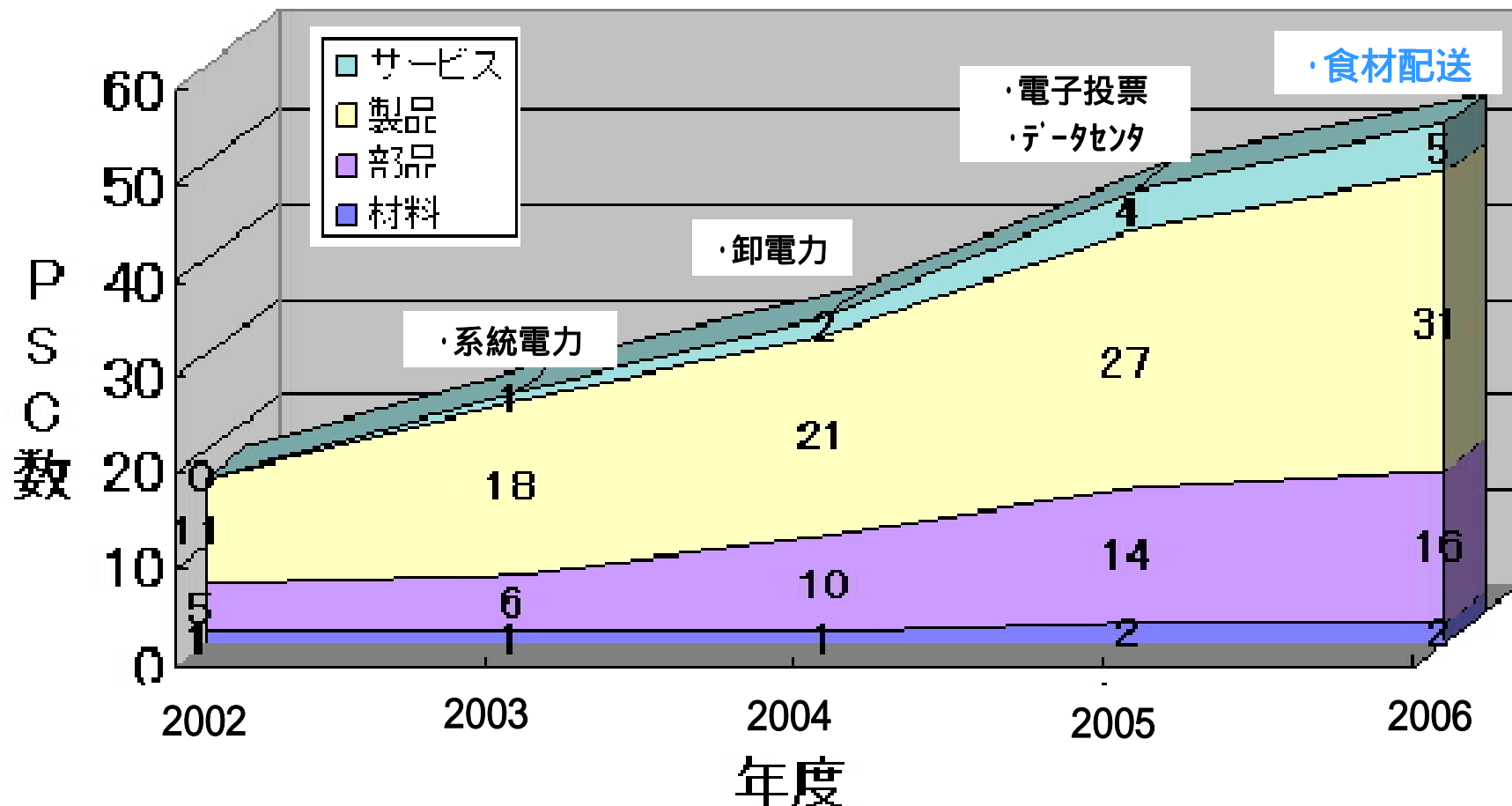


# エコリーフの製品グループの拡大

## 製品分類(PSC)数の推移

- エコリーフ対象が、「製品」から「サービス」へと拡大している
- ・事業開始当初(2002年度)は、製品グループが主体で普及
  - ・部品グループも徐々に増加し、サービスグループも増加中

製品種類の数(PSC数): 54件  
(2007年3月現在)





# エコリーフを公開した企業一覧

No	企業名	No	企業名	No	企業名
1	セイコーエプソン	21	東陶機器	41	東芝
2	パナソニックコミュニケーションズ	22	竹村製作所	42	東日本電信電話
3	キヤノン	23	エデイス	43	日立製作所
4	コニカミノルタ	24	NECビッグロープ	44	富士通フロンテック
5	富士フイルム	25	NTTアドバンステクノロジー	45	富士電機リテイルシステムズ
6	エプソンダイレクト	26	カシオ計算機	46	理想科学工業
7	東洋製罐	27	川島織物セルコン	47	モスフードサービス
8	富士通	28	関西電力	48	三菱マテリアル
9	日本テトラパック	29	関東共栄	49	ペンタックス
10	リコー	30	京セラミタ	50	旭化成
11	ユニバーサル製缶	31	クラレファスニング	51	九州電力
12	ブラザー工業	32	オリンパス	<b>ラベル公開数: 430件</b> <b>(累計570件)</b>	
13	シャープ	33	サンポリマー		
14	東芝テック	34	JSP	<b>2007.4.2 現在</b> <b>参加企業数: 51社</b>	
15	京セラミタ	35	積水化成品工業		
16	三国プラスチック	36	セルコンテクノス		
17	東北リコー	37	タカシマパッケージング		
18	富士電機システムズ	38	椿本チェーン		
19	松下電工	39	デュプロ精工		
20	ニスカ	40	電源開発		

## まとめ

---

ライフサイクルシンキングが徹底された企業活動の展開。例えば、サプライチェーンの川上・川下企業の連携を通じた資源投入の抑制や資源の利用効率を高める高度なリサイクルを推進。

各国の国情の違いを踏まえつつ、我が国の先進的な取組を世界に発信することで、3Rの取組環境の共通化を推進。規格策定を戦略的に活用。

新たな3Rの推進に向けて、企業、消費者、市場の連携を強化するための仕組み作りが重要。